

事業番号	325
------	-----

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	八雲町児童交流事業						担当部	教育委員会事務局							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	教育総務課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	庶務係							
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		16 学校教育		4 調和のとれた人間形成づくりを支援する									
		副目的														
	予算区分	款	10		項	1		目	3		大	10		中	1	
	根拠法令・個別計画															
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	31 %			委託	69 %			助成	0 %					
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	小牧市と歴史的つながりの深い八雲町児童との交流学习を通じ、学童期の貴重な体験学習のひとつとする。														
	内容 (手段)	<p>夏季の八雲町派遣事業、冬季の小牧市受入事業を行う。募集児童数は、平成23年度より小学6年生32名に変更した。派遣事業は本来、洋上セミナー2泊、公的施設での宿泊1泊、小牧荘宿泊2泊の5泊6日間で体験学習活動を中心としているが、台風による往路のフェリーが欠航となる緊急事態により、往路も航空機に変更し、洋上セミナーのない3泊4日で実施した。受入事業では民泊2泊、小牧勤労センター2泊の4泊5日間に郷土の紹介をするなどの活動を実施している。</p> <p>事務局は、選考委員会、交流委員会、学習会等の開催、学校、引率教諭、八雲町との連絡調整を行う。開催年度により、5年生も募集対象とするなど定員を満たすよう努力している。また、参加者にはフェリー運賃等一部の費用を自己負担してもらっている。</p> <p>自己負担額…29,300円(フェリー代6,300円、航空賃19,800円、冬の交流会保護者食事代1,200円、民泊先手土産代2,000円)</p> <p>《直接経費内訳》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八雲町児童交流事業委託料 4,625,538円 (夏季事業派遣経費・需用費等、冬季事業宿泊経費・交流事業費・需用費) 														
受益者負担	無															

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	2,797	3,807	4,626	4,289	
		正職員	従事者数	人	0.40	0.40	0.40	0.40
			人件費	千円	2,127	2,127	2,127	2,127
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	4,924	5,934	6,753	6,416	
	対前年比	%			120.5	113.8	95.0	
財源	一般財源	千円	4,924	5,934	6,753	6,416		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	事前(後)学習会	日	目標		12	12	12
実績				12	12	12	
八雲町派遣事業	日	目標		6	6	6	6
		実績		6	6	4	
八雲町受入事業	日	目標		5	5	5	5
		実績		5	5	5	
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	本市の参加児童数	人	目標		40	40	32
実績				40	36	32	
八雲町からの受入児童数	人	目標		20	20	16	
		実績		23	18	16	

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	<p>事業の達成状況</p> <p>八雲町からの定員変更の申入れを受け、当市で協議の結果、参加児童数を40名から32名に変更し、お互い定員を満たした状態で事業を実施することができた。また、台風によるフェリーの欠航という緊急事態が発生したが、往路も航空機に変更することができ、若干の日程変更は生じたものの、夏季事業としては概ね実施することができた。</p>
	事業実施における課題等	<p>天候による事業内容の変更に対処できる手段・予算等が確保されていないため、平成23年度夏季事業と同様の事態になった時は、最悪の場合は夏季事業の中止も想定される。</p>
	事業を縮小・廃止したときの影響	<p>この事業は市で行っている唯一の児童学習交流であり、長い歴史もあるため、現在は過去に参加した児童が親となり、今度はその子どもが参加するという状況もあり、参加児童は抽選を行って決めている状況である。縮小・廃止によって、貴重な体験学習を望む児童数を減らさざるを得なくなる。</p>
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持
	判定理由	<p>この事業は、市で行っている唯一の児童学習交流であり、定員についても、各小学校男女各1名は参加できるよう検討されたばかりである。</p> <p>また、参加児童についても、抽選を行って決めている状況であるため、今しばらく現在のまま続けていく必要がある。</p>
	改善案等	<p>天候による事業内容の変更に対処できる対応策を策定する。</p>

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	<p>一次評価のとおり。参加した児童の体験が、他の児童やより多くの市民に伝わるように取り組むこと。</p>